

米日教育交流協議会代表 丹羽筆人

在米親子にアドバイス

日米の教育事情

記述式問題が拡充する新センター試験

大学入試センター試験に代わり、20年度から始まる大学入学希望者学力評価テスト(仮称)で、文部科学省が、記述式問題についてコンピューターによる採点支援を検討していると報道されました。23年度までは数十文字程度の短いものになりそうですが、24年度からは長文の記述にも対応できるよう受験生

海外での日本語の表現力向上が課題に

がパソコンやタブレット端末などを使って受験する方式の導入も検討中です。新センター試験に記述式問題を導入する背景には、知識量だけではなく、「思考力、判断力、表現力」という考える力を測ろうという大学入試改革の動きがあります。選択式のみでの現行のセンター試験では把握できなかった表現力が重視されることとなります。

また、出題科目数は簡素化されますが、新学習指導要領に登場する新科目の導入が検討されています。他科目や社会的現象と関連を意識した出題やセンター試験よりも高難度の選択問題の出題、1点刻みではなく多段階による成績表示、複数回の受験機会なども検討され、英語では、「話す・聞く・書く・読む」の4技能のテストを実施する民間機関との連携も検討されています。

一方、19年度から高校2・3年生対象に始まる「高校基礎学力テスト(仮称)」は、全国学力調査的な位置づけであり、主に高校1年次に学ぶ部分から出題されます。当初は国語、数学、英語の3教科で実施され、その後、地歴公民や理科なども追加することが検討されています。このテストでも短い記述問題が導入され、電卓や辞書の使用も認めるようです。

20年度は現在の中学1年生、24年度は現在の小学3年生が大学を受験する年に当たります。つまり、現在の中学1年生以降の学年の子どもは、新センター試験の受験対象となるため、これまでのように知識を蓄えるのではなく、「思考力、判断力、表現力」を養う学習が必要になります。また、新センター試験の変更を含む大学入試改革では、各大学の実施する入試

でも、「思考力、判断力、表現力」を測るものとするのが検討されています。

海外で学ぶ子どもにとつては、日本語でこれらの力を発揮できるように準備する必要があります。これまでは、補習校や学習塾で知識を短い時間で集中的に学習し、何とか受験にも対応できましたが、これからは学習方法を転換する必要があるでしょう。特に、与えられた課題について、自分の考えを日本語の長文で表現する力を養う学習を意識的に行うことが大切なのです。もちろん、日本の高等学校の授業にも変化が見られるでしょうし、補習校もそれに合わせることが課題となりそうです。(今回は7月第4週号掲載)

米日教育交流協議会のウェブサイトに、当コラムのバックナンバーもお読みいただけます。

UIJEC Website: www.ujec.org